

【発行所】香川県東讃農業改良普及センター

〒769-2401 さぬき市津田町津田930-2(大川合同庁舎内) TEL:0879-42-0190 FAX:0879-42-0196

E-mail: tosannokai@pref.kagawa.lg.jp

URL: https://www.pref.kagawa.lg.jp/tosannokai/

集落営農の組織間 や 農業支援グループ との 連携 について

令和6年度に設立した
農業支援グループ



原あととり農援隊



まごの手



SSG

法人間連携について協議する福栄地区の集落営農組織

東讃農業改良普及センターでは、農業従事者の高齢化や労働力不足に対応するため、集落営農組織の法人間連携を推進しています。

法人間連携とは、1階が個別農家の経営で、2階が個別農家の農地を集積した農事組合法人による経営となります。さらに効率化を図るために、3階の組織を設立し、機械と人材を集約して2階部分に派遣するものです。

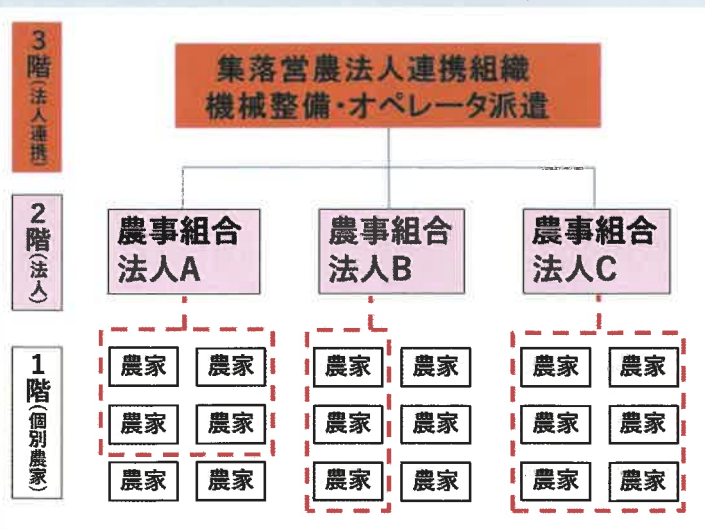
東かがわ市の福栄地区では、3階の組織が機械作業を受託するスタイルを目指しています。

また、普及センターでは、地域の農業を維持するため、農業支援グループの推進に取り組んでおり、現在、管内で13組織が設立し、若手の方々も多く活躍しています。

個別農家だけでなく集落営農法人においても、農業支援グループとの連携や作業を委託したいという意向があり、新たな連携活動の発展が期待されています。

県内の農業支援グループの概要については、右の2次元コードよりご確認下さい。

集落営農組織の法人間連携のイメージ図





香川県による環境にやさしい農業の推進について

- ・国や県は、将来にわたって農業を維持・発展させ、食料を安定的に供給していくため、「みどりの食料システム戦略」(令和3年5月策定)に基づき、従来からの生産性向上に加えて、環境に配慮した、環境にやさしい農業の取り組みを推進しています。

環境にやさしい農業に向けて土づくりは基本です

- ・環境にやさしい農業とは、健全な土づくり等を通じて、化成肥料や化学農薬の使用等による環境への負荷を軽減し、農業の持続的な発展や自然環境の保全に貢献するものです。
- ・健全な土づくりとは、農業の持つ物質循環機能を活かし、緑肥作物の作付けや堆肥の施用などによって、土壌中の有機物を増やし、土壌を作物の生育に適した状態にすることです。

01

緑肥作物による土づくり

- ・緑肥作物は、土壌を肥沃にする目的で栽培し、生育中に青刈りして土壌にすき込みます。
- ・緑肥をすき込むことで、作土に多くの有機物が供給され、土壌環境を整えてくれます。
- ・前作物の養分残留があった場合、いったん緑肥作物がそれを吸収してくれるため、河川等の外部に流亡することを防ぎ、利用しにくい形態のリン酸なども次の作物が吸収しやすくなる場合があります。基本的に土壌養分は増加しません(例外:マメ科植物)

※緑肥作物の種子については、JA、種苗業者等でご購入できます。

表1 緑肥として利用されている主な植物の種類

種 類	分 類	用途・適性			耐 湿 性	初 期 生	草丈 (cm)	播種量 (kg/10a)	播種期	
		緑 肥	景 観	飼 料					春～夏まき (月)	秋まき (月)
ソ ル ガ ム	イネ科	◎	×	◎	△○	○	250	4～5	5上～8下	—
ラ イ ム ギ		◎	×	◎	×	◎	200	8～10	1下～4中	10上～11下
セ ス バ ニ ア	マメ科	◎	×	△	○	△	200	4～5	5下～8中	—
ヘアリーベッチ		◎	△	○	△	○	50	3～5	3上～3下	9下～11上
レ ン ゲ		◎	◎	○	△	△	30	2～3	—	9中～10下
コ ス モ ス	キク科	△	◎	×	×	○	100	1～2	4上～8中	—
ヒ マ ワ リ		△	◎	△	×	○	150	3～4	5上～7下	—
シ ロ カ ラ シ	アブラナ科	◎	◎	×	×	◎	100	2～3	2下～3中	11上～12上

02

堆肥による土づくり

- ・家畜ふん堆肥を農地に施用することで、健全な作物栽培に向けた土づくりを行い、同時に耕畜連携による循環型農業につながります。
- ・ただし、化成肥料中心の施肥体系で家畜ふん堆肥を使用した場合は、特定の土壌養分(リン酸や加里、石灰など)が溜まりやすく、土壌診断による施肥改善が必要になる場合があります。
- ・詳しくは、折込資料をご参照ください。

※土壌診断の実施については、JA、肥料販売業者または農業改良普及センターまでお問合せください。

一筆からでも 水稲作付け拡大を図ろう!!

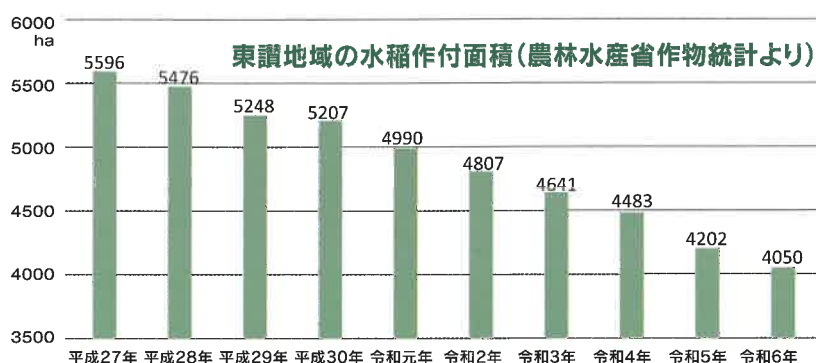


東讃地域では主食用水稲作付面積がここ10年で、毎年約150ha(甲子園球場約37個分、県全体では400ha)減少しています。このため、主食用米の生産量が県内の消費量を下回り、消費県となっていました。

令和7年産水稲について、植付本数や栽植密度を適正にすることで苗の有効活用を図り、今からでも作付け拡大をお願いします。

水稲作付の メリット

- 農業所得の向上と経営安定
- 水稲の裏作に麦類や野菜を作付けて農地の有効活用
- 雑草対策や連作障害の改善



ジャンボタニシ対策で水稲安定生産!

ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)被害により、減収・水稲作付意欲低下につながっています。次の3つのポイントにより、被害防止対策に努めてください。

ジャンボタニシ
による食害▶



◀ 田植え後の
浅水管理



1. 水田に入れない・広げない!

- ・用水路等の卵塊は、早めに水中に削り落とす
- ・水田の水口に侵入防止ネットを設置する

2. 苗を食べさせない!

- ・代かきで、ほ場の均平化を図る
- ・農薬を散布する(スクミノン、パダン粒剤4など)

3. 田植え後の浅水管理

田植え後約2~3週間は4cm程度で食害防止

「多様な農業人材経営計画認定制度」のお知らせ

県では、地域農業と農地を守るため、認定農業者などの核となる担い手の育成・支援に取り組んでいます。核となる担い手だけでは農地の維持が困難なことから、経営発展に意欲的な農業者を幅広く担い手として認定する県独自の取り組みを行っています。

意欲的に農業に取り組み、地域の農地活用に貢献している兼業農家などがいらしたら「多様な農業人材」の認定制度をご紹介します。

★現在、9月認定の申請募集中(7月末まで)です。

詳しくは、右の2次元コードからご確認ください。



紹介

名誉農業士

名誉農業士



池内 義春 様
(高松市)
水稻
露地野菜
施設野菜

農業士



植松 寛貴 様
(高松市)
施設野菜
露地野菜
WCS用稲



河田 旦 様
(高松市)
露地野菜
麦、WCS用稲

令和7年度、新しく香川県名誉農業士・農業士の称号が付与される方々です。※認定式は5月20日、県庁にて

農薬を安全に使用しましょう

1. 誤飲・誤食を防止

- ・飲食物と一緒に保管しない
- ・農薬を飲料の空き瓶やペットボトルなどに移さない
- ・毒物・劇物は施錠して保管する



2. 使用者の安全に配慮!

- ・調整時にも手袋やマスク、ゴーグルを着用し、原液に触らない
- ・散布時にはカップや滑りにくい長靴を着用する
- ・防除器具に破損がないか定期的にチェックする



3. 収穫物の農薬残留基準超過を防止

- ・散布前にラベルを確認する(使用時期、使用回数、希釈倍数、散布量)
- ・農薬の散布履歴を記帳する
- ・散布後は薬液が防除器具に残らないよう洗浄する

乗用型機械による「転倒・転落」に注意!!

令和5年度の農作業事故死亡者数は全国で236人(うち香川県7人)となり、中でも機械作業によるものが147人(62%)を占めていました。そのうち「機械の転倒・転落」による死亡者数が最も多く、60人(機械事故のうち40.8%)でした。

乗用型トラクターや田植機などによる作業を行う前には、改めて走行経路・作業手順を確認し、危険性を下げるための対応を行いましょう。



出典：一般社団法人日本農業機械化協会「農作業安全指導マニュアル」

危険性を下げるために

乗用型機械の共通事項

- ①路肩の除草・ポール設置
- ②運搬車への機械の乗降位置の特定
- ③作業終了時刻の設定
- ④補助作業員への合図のルール化 等

田植機

- ①傾斜の下りは前進、上りは後進で
- ②重し代わりに乗らない
- ③滑りにくい長靴を履く 等



夏に備え「熱中症対策」が重要!

夏に向けて、農作業中に熱中症になる方が増えてきます。特に近年、夏季の異常高温などにより「熱中症対策」は重要です。早めの予防対策に努めましょう。

熱中症対策

1. 高温時の作業は極力避け、日陰や風通しの良い場所での作業
2. こまめな休憩と水分補給
3. 複数の方と作業するなど、単独作業は避ける(緊急連絡確保)
4. 帽子着用など「熱中症対策」アイテムの活用

お知らせ

令和7年度 高松地区の簿記会場が園芸総合センターから東讃農業改良普及センターパソコン室になります。

今年度、園芸総合センター改修工事により使用ができなくなりました。ご理解、ご協力をお願いします。